

# 対馬のバードウォッチング

～国境の空を舞う野鳥たち～



①ヤマショウビン

## (一社) 対馬観光物産協会

〒817-0022長崎県対馬市厳原町国分1441  
TEL 0920-52-1566 FAX 0920-52-1585  
<http://www.tsushima-net.org/>

製作協力：対馬野鳥の会

平成20年度長崎県21世紀まちづくり推進総合支援事業

## 渡り鳥の十字路、対馬

九州最北端、韓国まで49.5キロに位置する対馬は、渡り鳥の飛来・通過の十字路。日本で知られている鳥類の半数を超える300種以上の野鳥が記録されている。ミサゴなどの留鳥の他、春・夏・秋・冬の渡り鳥、稀な旅鳥や迷鳥など、1年を通して野鳥観察を楽しむことができる。

## 対馬の留鳥



## 野鳥情報

- 「野鳥通信～対馬から～」  
<http://www.5b.biglobe.ne.jp/~nojiko/>
  - 「対馬野鳥図鑑」  
<http://twcc.cool.ne.jp/bird/>
- 対馬の野鳥に関する最新情報は、上記のサイトから！

## 観光情報

- 「対馬観光物産協会」 TEL 0920-52-1566  
<http://www.tsushima-net.org/>
- 対馬の観光情報、パンフレット（全島地図、宿泊・飲食など）の送付依頼は上記まで。

## 対馬の野鳥一覧



## 秋の渡りについて

9月、厳原町の内山峠では小型の猛禽類・アカハラダカの渡りが観察される。1ヶ月で10万羽を超える年もあり、条件がよければ1日で数千数万の渡りを観察できる。

10月から11月にかけては、タヒバリ類を追ってハイタカやチョウゲンボウなどの猛禽類が姿を現す。冬になると、対馬北部の上空にオオワシ・オジロワシなどの大型猛禽類がやってくる。



## 春の渡りについて

春の渡りの最盛期は、数時間単位でめまぐるしく鳥の種類が変化していく。朝に観察された野鳥の群れが、夕方には一羽も見られなくなることもある。普通種の中に、他の地域ではめったに見られない珍鳥がまぎれていることがあり、気の抜けない鳥見となる。また、春は全島が野鳥観察のポイントとなり、島内外のバードウォッチャーで賑わう。



No.	撮影地	撮影日	No.	撮影地	撮影日	No.	撮影地	撮影日
①	上県町佐護	2008.05.16	⑪	上県町伊奈	2006.05.05	⑳	上県町志多留	2002.05.05
②	上県町瀬田	2004.07.19	⑫	上県町田の浜	2004.04.28	㉑	上県町佐護	2006.03.24
③	厳原町浅藻	2007.04.18	⑬	上県町佐護	2003.10.08	㉒	上県町佐護	2007.02.13
④	厳原町浅藻	2004.04.18	⑭	上県町佐護	2008.10.29	㉓	上県町井口浜	2008.01.09
⑤	美津島町加志	2007.05.13	⑮	上県町佐護	2007.05.23	㉔	上県町佐護	2008.03.10
⑥	上県町佐護	2008.04.26	⑯	上対馬町三宇田	2004.03.07	㉕	上県町佐護	2007.05.16
⑦	厳原町浅藻	2002.05.04	⑰	上県町飼所	2002.05.25	㉖	美津島町加志	2006.04.30
⑧	厳原町阿連	2008.05.25	⑱	厳原町浅藻	2008.04.07	㉗	厳原町内山	2007.09.22
⑨	美津島町玉調	2004.09.03	㉑	上県町佐護	2002.05.25	㉘	美津島町大山	2007.03.11
⑩	上県町佐護	2009.01.28	㉒	上県町志多留	2005.05.03	㉙	上対馬町舟志	2004.04.22

写真提供：対馬野鳥の会（杉原 敏氏 ②④⑦⑨⑪⑫⑬⑮⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙、正島 和幸氏 ⑤⑩⑭、川口 誠氏 ①⑥⑯㉚、会員 ③⑧⑬⑲）

# 対馬の野鳥観察マップ

## 対馬南部ルート



**豆酸(つつ)**  
尾崎山公園の芝生がヤツガシラの観察ポイント。

**内院(ないいん)～浅藻(あさも)～久和(くわ)**  
春、水田の周辺がホオジロ類・ツメナガセキレイ等の観察ポイントとなる。ヤマショウビンは毎年観察されている。

**瀬(せ)**  
瀬川の河口周辺でカモメ類・シギ類・チドリ類が観察される。  
※豆酸の豆酸崎(尾崎山公園)と美女塚公園にトイレがある。

## 対馬中部ルート



**加志浜(かしはま)**  
河口・湿地・水田周辺でヤマショウビン・コシヤクシギが観察されたことがある。渡りの時期のホオジロ類が面白い。

**洲藻(ずも)**  
洲藻川周辺・畑まわりのブッシュが観察ポイント。春、水田に水が入るとシギ・チドリ類が観察されるようになる。  
※加志浜に商店・トイレがある。

## 対馬中部ルート



**三根(みね)**  
三根川中・下流域の川岸が観察ポイント。ホオジロ類のほかヤマショウビンやオウチュウなどが観察されたことがある。  
また春先には北帰行のマナヅルが立ち寄ることも。

## 対馬北部ルート



**佐護(さご)**  
対馬一の探鳥ポイント。2～3月にはツルが羽根を休め、数百の群れが見られることがある。猛禽類や珍鳥の出現も多い。佐護川沿いと水田周辺のブッシュが観察ポイント。対馬野生生物保護センターでツシマヤマメコが公開されており、野鳥情報も入手できる。

**田ノ浜(たのはま)**  
水田周辺のブッシュが観察ポイントで、パンケン等の珍鳥が出現したことがある。

**鱈浦(わにうら)～泉(いずみ)**  
オジロワシ・オオワシが毎年確認されている。

**舟志(しゅうし)**  
舟志川周辺が観察ポイント。  
※鱈浦の韓国展望所にトイレがある。



## 対馬中部ルート

**あそらベイパーク**  
園内の池でカモ類が観察できる他、ミサゴのダイビングが見られることもある。グラウンドはツグミ類・タヒバリ類の絶好の観察地。

**湯多里ランド(ゆつたりらんど)**  
雨後の水たまりで珍しいシギ類・チドリ類が散見される。周囲の荒地にびっくりするような珍鳥が出現することがある不思議な場所。対馬空港の近くなので、待ち時間を利用して鳥見ができる。  
※あそらベイパークは整備されたキャンプ場。  
※湯多里ランドには温泉施設・飲食店がある。



## 野鳥観察時の注意点

- 対馬は南北82キロの大きな島なので、効率的に移動するのがポイント。まず、北部か南部にターゲットを定めて野鳥観察を行い、夕方に移動し、翌日から観察を再開し、最終日は飛行機や船の時間に合わせて中部で観察を続けるのがもっとも効率的です。
  - 商店などが無い観察地もあるため、飲食物は早めの購入がおすすめ。
  - 現地でのウォッチャーとの情報交換や、携帯電話で野鳥ホームページの情報をチェックするのも忘れずに。
  - 他の自動車の運転を妨げない、農作業・漁業の邪魔をしないなどのマナーの遵守をお願いします。
  - 対馬の固有の生態系へ悪影響を及ぼすおそれがあるため、野鳥観察のための給餌などは控えてください。
- ### 島内移動について
- 公共交通機関は便が少ないためレンタカーが便利。
  - 島を縦断すると片道100キロを超えることもあるので、余裕をみてガソリンの補給をしましょう。
  - ツシマヤマメコなど野生生物の交通事故が多発しているため夜間の移動には注意をお願いします。